

③ 海中基地の居住性……基地の構造や内部環境条件の設計 制作は主として先進諸国の経験的資料を参考にし行なわれたが 温度 湿度 人工空気成分など雰囲気と人間工学的な検討が行なわれ 快適さ以外に緊急事態への対処など 安全対策も完ぺきを期さなくてはならない。

④ 海中環境に対する機器・装置の適応性……海中基地に関連する機器・装置はすべて高圧下の人工空気または海水中で使用される。 耐圧性と耐久性の総合的な実地テストがこの実験を通じて行なわれることは 関係業界の技術的な水準を明らかにし 品質向上や新製品開発のために波及効果が期待できる。

この一連の実験は同時にわが国で未発達な飽和潜水技術を習得する機会ともなるので 海洋産業界などから選ばれた人たちが訓練に参加し 4人1組で海中居住を体験することになっている。 これらの人々は生理 心理的に厳しい環境に耐え 支援作業や海中作業のための複雑な装置を使いこなさなくてはならない。 健康で知的水準が高く 目的意識の強い科学技術者はアクアノートに適しているというから 将来 海底の地質精査に海中派が活動する可能性は十分考えられよう。

科学研究の面でも生産面でも海中作業基地は人間と海との距離をさらに縮める意義をもつ。 その生活を海のユートピアとする第一歩として安全に 慎重に今回の実験を成功させたいものである。

(筆者は物理探査部 科学技術庁海洋開発官付に併任)

地学と切手



先史時代の
の
絵の切手
P. Q.

今から約50年ほど前 ノルウェーの西海岸に連なるフィヨルドの奥で網を入れて 魚のかかるのを待っていた漁師が 海岸の氷河で磨かれた岩壁に大きなトナカイの絵が刻まれているのを発見した。 これはすぐに専門家に報告されて調査されたところ 絵は2マイルも続いております 1963年に再調査された時には 1,500ものトナカイ 魚 クマ カエル 水鳥などの絵が発見された。 これらの絵は先史時代人の狩猟芸術と呼ばれ ノルウェーばかりでなく スウェーデンやソビエトでも発見されており スペインや南フランスで有名な洞窟芸術に対して 北極圏芸術 (Arctic Art Zone) として区別されている。 絵はすべて氷河で滑らかに磨かれた露岩の上に曲線で刻まれたトナカイやクマの姿などが実に優美な線画として描かれている。 また ここに上げた切手のように 体に筋肉構造を示すような模様が刻まれているものも多い。

これらの絵は 先史時代の人々が静かなフィヨルドからフィヨルドへと獲物を求めて狩をして歩き けわしいU字谷の岩壁を見上げて 豊猟を祈って岩に刻みこんだものであろうと考えられている。 数年前にもオスロフィヨルドの東岸で 農場のわきの苔を牛がはがしたところ みごとなソリのようなもの

のった人間を描いた絵がみついている。 大勢の人が集団でお祈りをしているような あるいは狩をしているような姿が描かれている。

第四紀地質学の中では スカンジナビアをおおった大氷床とその後退に伴って次第にこの地域が隆起してきた歴史はあまりにも有名である。 沖積世に入ってから 現在のバルト海は ヨルディア海 (10,000~9,000年前) — アンシルス海 (8,500~7,500年前) — リットニア海 (7,500~3,500年前) — リムネア海 — マイヤ海時代を経て現在に至り リットニア海時代には すでに狩猟と共に原始的農耕文化があったことが明らかにされている。 この切手にみられる絵はすべて後氷期のものであり 旧石器時代のものでないことは明らかであるが たしかな時代は決められていない。 文書による記録がB. C. 数千年までたどれる中国や中近東とはちがって 北欧では10世紀のバイキングの時代が考古学の対象として扱われる歴史の浅い国のことであるから これらの絵も案外新しいものかも知れない。 そうしてみると ソリや船の形がバイキング時代のものと共通しているところもあるように思う。

40オーレの切手は 1966年にオスローで開かれた世界スキー選手権大会の記念切手で その図案は上記トナカイなどと同じ石に刻まれた絵の中にあつたスキーをする人の絵である。 このように先史時代からスキーは生活の中で用いられていたのである。 これらの絵に共通な特長は 無駄のない優美な簡潔さということであろう。 今日の北欧の家具などをみていると 南ヨーロッパの装飾多い賑やかさに比べて 実に単純化されたスマートさがあるのは こうした長い文化の伝統にもとづくものかも知れない。

「訂正」

203号の「フライベルグ鉱山学校200年記念切手」の説明文に誤りがありました。 フライベルグは東ドイツにありますので 冒頭の南ドイツは東ドイツに訂正します。 なお 9行目以下の4行の記事は南ドイツにあるフライベルグ大学と誤解しましたので削除します。 ご教示いただいた大町金属課長にお礼申し上げますとともに 読者の皆さんに深くおわびします。